様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３８１０４０

研究課題名（和文）国際バカロレア・モデルによる職業・キャリア教育の可能性　-イギリスを手がかりに-

研究課題名（英文）Does IB Model bring breakthrough to vocational/career education?: Case study in the UK

研究代表者
柳田　雅明（YANAGIDA, Masaaki）

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：２０２６０５２３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：国際バカロレア・モデルによる職業・キャリア教育の可能性について、イギリスにおける取り組みを手がかりにして、現地訪問調査を軸として検討した。その核となる検討対象は、国際バカロレア機構自身が研究開発を進める国際バカロレア・キャリア関連プログラム（略称IBCP）であった。IBCPは、就職と大学等高等教育機関進学ともに進路として制度設計されている。国を超えてのカリキュラム枠組みをもつIBCPであるものの、その「キャリア関連学習」が各国それぞれに設定であることを痛感した。IBCPが、質保証や水準維持の問題とどのようにかかわり、教育的不平等軽減や社会的包摂をどのようにもたらすのかは、今後の課題となった。

研究成果の概要（英文）：Does IB Model bring some breakthrough to vocational/career education？ In order to get meaningful findings, the research project team conducts Case Study through visiting research at the schools in the UK. The focused educational programme is the International Baccalaureate Career-related Program: IBCP, which the International Baccalaureate [Organization]: IB [O] itself does the R & D and awards the IB certificates. The IBCP is for progression routes both to employment and higher education. The research project team deeply realizes IBCP has transnational curriculum framework, with the 'career-related study' instituted on each country's existing educational and qualification system. Regarding how IBCP faces assurance of quality and standards and brings educational equity and social inclusion, there remain tasks to tackle.

研究分野：カリキュラム研究

キーワード：国際バカロレア　IBCP　統合的資質の形成　キャリア教育　アカデミック-職業デバイド　社会的包摂　高大接続　イングランド

１．研究開始当初の背景

中等教育が、科目・学習領域などで壁ができ、統合的な資質形成が不十分になりがちである。では、どうすればその克服ができるのか。

国際バカロレアの教育プログラムを、そのモデルとして挙げることができる。国際バカロレアは、3 歳から 19 歳までの学び手を対象とした 4 つの教育プログラムを開発がされ、世界 147 力国 4300 校以上の学校へ提供し（2015 年現在）、世界共通の大学入学資格及び成績証明書として授与されている。

ただ、従来の国際バカロレア教育は、職業に関する専門の力を身に付けるための取り組みがあったとは言いがたい。統合的な資質形成ができるとされてきたものの、普通教育の範囲に限定されていたのであった。

そのような中、国際バカロレアを模したとされる複数の教育プログラムが、本科研での検討対象地域であるイギリスなどで職業やキャリアに関する内容を組み込んですでに展開してきている。そして、公費セクターにおける取り組みが、イギリスで進んできた。

そこに、「国際バカロレア・キャリア関連プログラム」（International Baccalaureate Career-related Program：以下「IBCP」と表記）が、国際バカロレアの第 4 のプログラムとして登場することになった。IBCP は、後期中等教育段階から職業資格に向けてなど職種に対応する専門の力を学ぶ教育機会をも提供するとともに、IBDP と同様に大学等高等教育機関が求めるアカデミックな準備教育の両面に対応しようとして制度設計がなされている。その対象年齢層は、大学等高等教育機関への進学に向けて基本的に設けられている国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(International Baccalaureate Diploma Program：以下「IBDP」と表記)と全く同じ学年の生徒が対象となる。IBCP の実施は、2011 年に国際バカロレア・キャリア関連サーティフィケート（International Baccalaureate Career-related Certificate：以下「IBCC」と表記）として試験導入されたことに始まり、2012 年より正式実施となっている。現名称である IBCP となったのは 2014 年である。国際バカロレア公式ウェブサイト(http://www.ibo.org/)によれば、2017 年 5 月 25 日現在 IBCP 認定校数は全世界で 136 である。

ところが、国際バカロレアによる取り組みが、従来あくまでも普通教育の範囲内であったこともあって、職種に対応する専門の力を学ぶ教育機会を提供する IBCP を対象とする学術研究は、推進する立場にある者たちからの紹介に止まっていた。

２．研究の目的

そこで、この IBCP を検討することを通じて、国際バカロレアをモデルとしての職業やキャリアに関する教育の可能性に資する踏み込んだ知見を、国レベルと現場との対応関係が明確な形で獲得することを目指した。イギリスでは IBCP における公費による取り組みが進行をしており、その公費に基づく取り組みの可能性を検討することができる。その際検討の観点は、1)国際バカロレア理念の貫徹度、2)学習成果の水準維持、3)特権的な学び手だけに限定されない包摂性、そして 4)財政的現実性という 4 つとした。たしかに、国際バカロレア・プログラムは、経費が高額になることもあって、国際学校といった授業料設定自由度が高い私費セクター校が中心となってきたものの、公費による取り組みが現実として進行しているというイギリスでの事実から、示唆ある知見が期待できる。

３．研究の方法

具体的手法は、質的ケース・スタディとして、カリキュラムに焦点を当てる。カリキュラムに焦点を当てることにより、理論・政策・制度と学校現場の間との対応関係が明確な形で表れるので、双方の間にどこまで整合性があり、またどのような葛藤・乖離・齟齬などがあるかを、構造として位置付けつつ明らかにしていける。

研究計画での核は、現地訪問調査である。イギリスにおける IBCP 認定校において、カリキュラムを検討の中心とする質的ケース・スタディを実施する。訪問調査では、準構造化した質問項目を事前に伝える方式を基本とする。さらに、授業を参観し、学習材をはじめとする現物資料の雛形を分けていただき、また実物資料(学習材)をデジタル・カメラ等で撮影もさせていただく。学内内部資料も閲覧・複写等により可能な限り電子的なものも含め入手する。

訪問校は 5 校であり、うち 3 校で正式調査を実施した。訪問調査を行った 2015 年 3 月と 2016 年 3 月では、イギリスでの IBCP 認定校数は 12 校であってうち 9 校が公費運営であった。調査校は、3 校ともに公費運営とした。うち 2 校は、厳しい状況に置かれ続けたいわば「剥奪された地域」に立地している。もう 1 校は、公費運営校における先導的実践と研究開発を行ってきた。

以上訪問調査と相補う形で、電子化されたものも含めて政策資料等文献研究も行っている。さらには、現地で当該分野をリードする学術研究者へのヒアリングも、２大学４人に対して十分な形で行えた。

以上の手法によって、公費セクターでの取り組みが先行するイギリスを対象地或として検討していった。その際、IBCP と全く同じ学年の生徒が対象となりつつすでに広く知られ、大学等高等教育機関へと進学するよう設けられている「国際バカロレア・ディプロマ・プログラム」（IBDP）との比較検討に改めて力点に置く論考取りまとめ作業を行っ

ている。また社会的包摂に力点を置いての検討取りまとめも進めている。

４．研究成果

成果公開に関しては、次に示す 12 件の学会発表を行った。それらに対しては、学術研究者と関連取り組みに従事する実践家などからコメントをいただき、今後の改善にも向けてという段階ではあるものの、日本比較教育学会大会共同発表といった形でかなり進んできていると認識している。

IBCP を通じて、教育的不平等軽減や社会的包摂がどのようにもたらされるのかへの回答は、前述とりまとめの最中である。そしてIBCP が国を超えてのカリキュラム枠組みを持つことに着目しての研究を進める重要性を認識することもできた。特に、IBCP 独自となる「キャリア関連学習」が各国それぞれに設定されていることについて切り込んで研究を進めることが大事であると明らかになってきた。そのことにより、この各設定部分が質保証や水準の維持の問題とどのようにかかわるのかについて今後の課題であることもはっきりとしてきた。

そのような中、平成 29 年度からは、対象とする国・地域をイギリスに、シンガポールとドバイを加える新たな科研として研究を発展的に継続できることになっている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計　12 件）

①柳田 雅明、「スコットランドにおける成人向け高等教育進学準備課程　－グラスゴー大学への接続を中心に－」、教育目標･評価学会 第 27 回大会、2016 年 11 月 27 日、一橋大学 国立キャンパス（東京都国立市）

②柳田 雅明、飯田 直弘、中西 啓喜、御手洗 明佳、花井 渉、「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム（IBCP）の「ローカル化」に影響を与える実践校の多様な背景 －イングランド現地中等学校調査から－」、日本教育学会 第 75 回大会、2016 年 8 月 25 日、北海道大学（北海道札幌市）

③御手洗 明佳、花井 渉、中西 啓喜、飯田 直弘、柳田 雅明、「アカデミックな教育と職業・キャリア教育の有機的な融合を目指す中等教育カリキュラム －国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム（IBCP）の事例から」、日本教育学会 第 75 回大会、2016 年 8 月 25 日、北海道大学（北海道札幌市）

④柳田 雅明、「イギリスにおいてバカロレアと名乗る教育プログラム、そして IBCP(国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム)」、日本比較教育学会第 52 回大会、2016 年 6 月 24 日、大阪大学豊中キャンパス（大阪府豊中市）

⑤御手洗 明佳、「『知っている』から『できる』への移行を考える　－IB の教育現場から－」、教育の国際化研究会（共同主催 早稲田大学情報教育研究所、明治大学サービス創新研究所）、2016 年 4 月 28 日、早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区）

⑥柳田 雅明、「『カリキュラムの社会学者』マイケル・F・D・ヤングには、何をどこまで求められるのか　－近年の論考が英語圏で脚光を浴びる状況に着目して－」、日本教育学会 第 74 回大会、2015 年 8 月 30 日、お茶の水女子大学（東京都文京区）

⑦柳田 雅明、飯田 直弘、花井 渉、「職業･キャリア教育に力点を置く新たな国際バカロレア・プログラムを検討する　－包摂性と質の保証に焦点を当て、イギリスでの実践校を事例に－」、日本比較教育学会 第 51 回大会、2015 年 6 月 13 日、宇都宮大学峰キャンパス（栃木県宇都宮市）

⑧柳田 雅明、「スコットランドにおける成人向け高等教育進学準備課程: 近年の動向」、日本生涯教育学会第 35 回大会、2014 年 11 月 22 日、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（東京都台東区）

⑨Masaaki YANAGIDA, Naohiro IIDA, Wataru HANAI. “What do students have an entitlement to learn at upper secondary school?: A review from *A British ‘Baccalauréat’* to the current diversity of Baccalaureates in the UK.” The 50th Japan Comparative Education Society (JCES) Annual Conference. July 12, 2014. Nagoya University (Nagoya, Aichi)

⑩柳田 雅明、「国際バカロレア・モデルによる職業・キャリア教育の可能性」、日本産業教育学会第 38 回関東地区部会、2014 年 2 月 15 日、職業能力開発総合大学校（東京都小平市）

⑪柳田 雅明、大学入学到達度の全国共通設定における理念と現実　－スコットランドの検討－」、教育目標・評価学会第 24 回大会、2013 年 12 月 1 日、滋賀大学教育学部（滋賀県大津市）

⑫柳田 雅明、飯田 直弘、花井 渉、岩崎 久美子、「教育プログラムとしての「バカロレア」の多種多様性　－イギリスにおける現状と課題－」、日本比較教育学会第 49 回大会、2013 年 7 月 6 日、上智大学四谷キャンパス（東京都千代田区）

６．研究組織

(1)研究代表者

柳田 雅明（YANAGIDA, Masaaki）

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：20260523

(2)研究分担者

飯田 直弘（IIDA, Naohiro）

北海道大学・高等教育推進機構・准教授
研究者番号：80578063)

中西 啓喜 （NAKANISHI, Hiroki）
早稲田大学・人間科学学術院・助教
研究者番号：10743734

御手洗 明佳 （MITARAI, Sayaka）
千葉大学・アカデミック・リンク・センター・特任助教
研究者番号：00725260

(3)連携研究者
岩崎 久美子（IWASAKI, Kumiko）
放送大学・人間発達科学プログラム・教授
研究者番号：10259989

(4)研究協力者
花井 渉（HANAI, Wataru）
九州大学・人間環境学研究院・学術協力研究員
研究者番号：60783107